

無差別殺傷事件の動機

死刑が誘発する犯罪

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

死刑を廃止すると、「凶悪犯罪」が増えるのでは、と心配する人が少なくありません。あなたはどうか。漠然とした不安をお持ちでしょうか。

死刑による犯罪抑止効果は証明されていません。アメリカの死刑のある州と廃止している州の犯罪発生率を比較したり、あるいは死刑を廃止した州がその前後でどのように犯罪件数が変化したか、などのデータを基に様々な研究がなされているのですが、犯罪抑止効果は、「ある」とも「ない」とも、証明できないそうです。

はっきりしないのなら、残しておいたほうが無難かな、と考える人もいるでしょう。でも、それがむしろ「凶悪犯罪」を誘発しているとしたら？

☆☆☆

「凶悪犯罪」と聞いて、どんな事件を思い浮かべますか？ いわゆる無差別殺傷事件を連想する人も多いと思います。

法務総合研究所による「無差別殺傷事犯に関する研究」の報告（2013）が公表されています。「分かりにくい動機に基づき、それまでに殺意を抱くような対立・敵対関係が全くなかった被害者に対して、殺意をもって危害を加えた事件」で、2000年3月末日から2010年3月末日までに裁判が確定した52人について検察庁や保護観察所の記録などを基に分析したものです。

☆☆☆

その中で、動機として、「自殺できないことから死刑を意図したり、自殺への踏ん切りをつけるために」（52人中6人〔11・5％〕）、あるいは「社会生活の行き詰まりから刑務所へ逃避しよう」と（52人中9人〔17・3％〕）犯行に及んだとされています。これらの人々は、しかるべき相談窓口が彼らの生活圏で開かれていれば、犯罪に至らなかった可能性が高かったのではないのでしょうか。犯罪をためらわせるものと思われていた「死刑」や「刑務所」が犯罪を誘発しているのでは本末転倒です。

☆☆☆

現在、刑務所などの行刑施設では、再犯を繰り返させないために、社会で生きるノウハウをきちんと身につけさせようという基本方針が謳われています。（まだまだ、建前だけで、旧態以前の「懲らしめ」がまかり通っているという実情も見聞しますが）

それでは、「死刑」はどのように犯罪を「抑止」しているのでしょうか。むしろ誘発しているだけのように思いませんか。